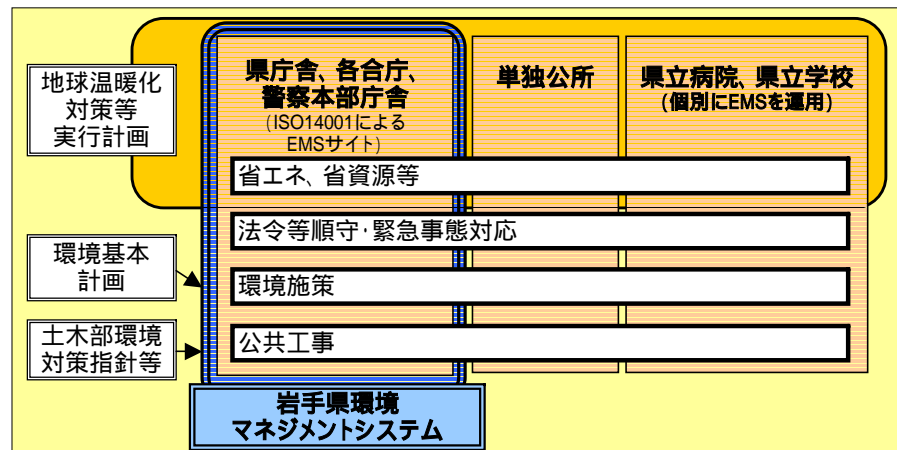
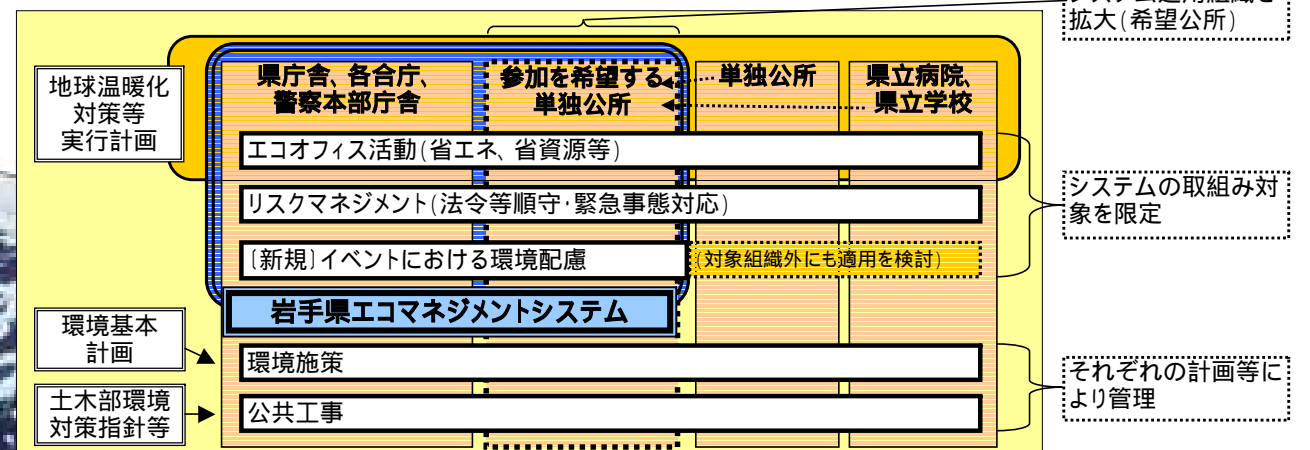


新しい環境マネジメントシステムの概要

【現行システム】岩手県環境マネジメントシステム(H11年度～)



【新システム】岩手県エコマネジメントシステム(H21年度～)



新システムへの移行

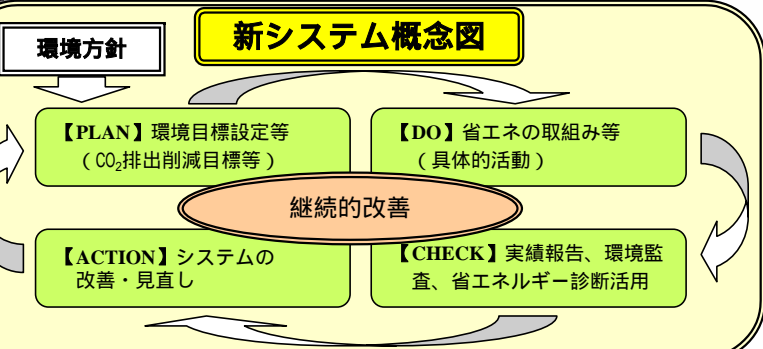
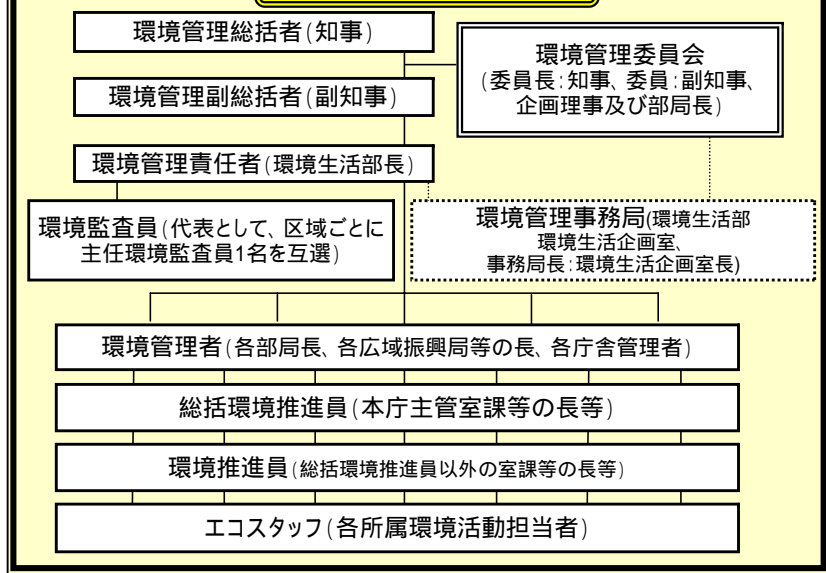
ISO認証終了を契機とし、職員の環境配慮の取組みを継続・活性化するため、目的を明確化した本県独自の環境マネジメントシステムを構築・運用する

環境マネジメントシステムの現状・課題

- 【県のISO14001認証取得】
H11年度(H12年2月)
- 【認証取得の目的】
県の率先実行による啓発 職員の意識改革
環境マネジメントシステムの構築及び継続的改善
環境負荷の低減 経費の節減
- 【現状】
約9年間の運用で組織内の取組みが定着している
定着度:省資源・ゴミ分別ほぼ100%、省エネ取組み80%以上
(職員アンケート結果)
光熱水費節減効果(H11～19年度、対H10年度比)1,274百万円
ISO14001認証維持経費年1,000～2,000千円程度
ISO14001認証期間の終了(H21.2.3まで)
- 【課題】
ISO14001規格要求事項に対応するための煩雑な事務処理
(分かりにくい仕組み)を解消する必要がある
環境基本計画進捗管理等との重複を解消する必要がある
省エネの取組みをさらに推進する必要がある
イベントにおける環境配慮を考慮する必要がある
職員アンケート、各部局等意見照会結果による課題抽出

「岩手県エコマネジメントシステム」が目指すこと
～地球温暖化対策等の推進～
地球温暖化対策に焦点をあて、職員みんなで環境にやさしい取組みを進める。
「環境」から「エコ」へ
システムの変更に伴い、システム名称に、親しみやすく、かつ、環境にやさしい取組みなどを意味する言葉である「エコ」を用いる。
エコとは・・・もともとは「ecology」(生態学)の略であるが、環境にやさしいという意味にも用いられている。(例)エコドライブ、エコバッグなど

新システム推進体制



課題解決のための対応

岩手県エコマネジメントシステムの特徴

- 目的の明確化(戦略の構築)**
システムを第2次岩手県地球温暖化対策等実行計画(率先実行計画)の目的達成の手段として位置付け、職員の地球温暖化対策等に関する活動(環境活動)を促進することを目的とする。
- 簡潔で分かりやすい仕組み**
事務の効率化のため簡潔で分かりやすい仕組みとし、システムの実効性を向上させる(例規等の簡素化)。
- チェック体制の変更**
ISO審査員による外部審査は費用対効果を考慮し行わないが、内部環境監査を「環境監査」として実効性を高めて引き続き行うほか、二酸化炭素排出量の見える化などにより、チェック方法を改善する。
- 取組み対象を限定**
システムにおいて取り組む対象を、エコオフィス活動(省エネルギー・省資源の取組み)リスクマネジメント(法令等順守・緊急事態対応)とし、環境施策、公共工事については、他の計画等に管理を委ねる(重複管理の解消)
- 省エネ・新エネ導入推進(新規)**
二酸化炭素排出の少ない新エネルギー設備の導入等を推進する。
- イベントにおける環境配慮(新規)**
環境負荷低減のため、県主催等のイベントにおける環境配慮を推進する。